

文章の構成

◇ 初め

○ 第一段落 — 第三段落

- ・ 話題の提示

◇ 中①

○ 第四段落 — 第七段落

- ・ 今の社会について（筆者の主張の前提）

◇ 中②

○ 第八段落 — 第十二段落

- ・ 今、私たちに必要な強さⅡ 「自立」とは（筆者の主張①）

◇ まとめ

○ 第十三段落 — 第十五段落

- ・ 他の人たちと関わり合い、弱さを補い合うからこそ人は倒れずにいられる。

◇ 終わり

○ 第十六段落 — 第十八段落

内容（初め）

【第一段落】

◇自分にしかないものは何だろう

【第二段落】

◇自分には他の人にはないどんな能力や才能があるだろう

【第三段落】

◇自分とは何か

・今は「自分とは何か」を誰もが問わずにはいられない時代。

○要約

「自分とは何か」という問いは、哲学者や思想家などによって昔から繰り返されてきたが、今は世代を超えて、誰もが問わずにはいられない時代。



内容（中①）

【第四段落】

◇今の社会

- ・これまでの時代に比べ、個人により大きな自由が保障される社会
- ・しかし、ここには自由があるからこそそのしんどさがついて回る

【第五段落】

◇何にでもなれる社会

- ・裏返して言えば、その人の存在価値は、人生において何を成し遂げたかで測られるようになる。

- ・こうした状況は「自分とは何か」という問いを「こんな私でもここにいていいのだろうか。」という切ない問いに変えてしまうことがある。

【第六段落】

◇無条件の肯定

- ・その問いに直面すると、私たちはこのままの自分を認めてほしいと思うようになる。

【第七段落】

◇依存症

- ・これは少し危ういことでもある。自分の存在の意味や理由を常に他人に与えてほしいと願う、受身の存在になってしまう。

○要約

今の社会はこれまでの時代に比べ、何にでもなれる可能性のある社会である。しかし、ここには自由があるからこそそのしんどさがついて回る。何にでもなれる社会というのは裏返していえば、その人の存在価値が何を成し遂げたかで測られるようになるということでもある。こうした状況は、「自分とは何か」という問いを、「こんな私でも、ここにいていいのだろうか。」という切ない問へと変えてしまう。そのような状況になったとき、私たちは一切の条件を付けずに自分の存在を認めてくれる人、いわば無条件の肯定を求めるようになる。しかしこれは、いつも誰かが見ていてくれないと何もできない依存症に陥ってしまう危険なことでもある。

内容（中②）

【第八段落】

◇それらを引き受ける強さ

- ・受身な存在でいては、人生で見舞われるさまざまな問題を、何も解決できない。
- ・私たちにはそれらを引き受ける強さが必要である。

【第九段落】

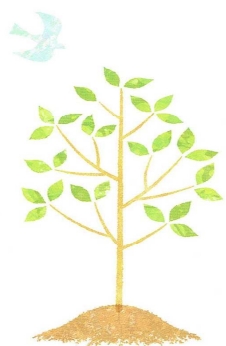
◇自立

- ・強さとは自立のことである。
- ・「自立」は「依存」の否定である 「独立」とは違う。

【第十段落】

◇独りでは生きていけない

- ・社会の中では数えきれない人達が、互いの暮らしと行動を支え合って生きている。
- ・お金があっても使えるシステムとそれを支える人がいなければ、何の役にも立たない。



【第十一段落】

◇インターディペンデンス（支え合い）

- ・「自立」は「インディペンデンス（独立）」ではなく「インターディペンデンス（支え合い）」である。

【第十二段落】

◇責任を負う

- ・「リスpond（応える）」＋「アビリティ（能力）」＝「リスpondシビリティ（責任）」。
- ・「責任」とは、訴えや呼びかけに応じ合うという協同の感覚である。

○要約

受身な存在では、社会で直面するさまざまな問題を解決できない。私たちにはそれらを引き受ける強さ、つまり「自立」が必要である。「自立」とは「インターディペンデンス（支え合い）」である。訴えや呼びかけに応じ合うという共同の感覚こそが「自立」であり、「責任を負う」ことである。

内容（まとめ）

【第十三段落】

◇受身で無力な存在

- ・人付き合いの困難を免除されるということとは、人を受身で無力な存在にする。

【第十四段落】

◇人生には超えてはならない、克服しはならない苦労がある

- ・苦労によって、人と支え合うことが必要になる。

- ・「自分とは何か」は、他人との関わりの中でこそ、浮かび上がってくる。

【第十五段落】

◇誰かの代わりに

- ・常に他の人と関わり合い、弱さを補い合うからこそ、人は倒れずにいられる。

○要約

「自分とは何か」という問いの答えは、人との関わりの中で浮かび上がってくる。人とかかわること、人は倒れずにいられる。

内容（終わり）

【第十六段落】

◇ 「パンセ」

・ 筆者が十代の頃から愛読してきたパスカルという思想家の著者。

【第十七段落】

◇ 「人間の弱さは、それを知っている人たちよりは、それを知らない人たちにおいて、ずっとよく現

れている。」

【第十八段落】

◇ 今の社会を生きる私たちにとつ

て、繰り返し味わうべき言葉。

○ 要約

・ 思想家パンセの「人間の弱さは、それを知っている人たちよりは、それを知らない人たちにおいて、ずっとよく現れている。」という言葉は、今の社会を生きる私たちにとって、繰り返し味わうべき言葉。